

「赤十字リポジトリ」の導入による リポジトリ活用の事例

天野いづみ
静岡赤十字病院 図書室

機関リポジトリ ; Repository ; 医療情報 ; 業績 ; オープンアクセス

I. はじめに

2012年6月に国立情報学研究所(NII)のJAIRO-Cludを利用し、日本赤十字社として「赤十字リポジトリ」を公開した。主なコンテンツは以下のとおりである。

1. 日赤医学会総会の抄録集：「日赤医学」No.1
2. 日赤医学会総会の優秀演題号：「日赤医学」No.2
3. 各施設の紀要，研究誌
4. 日本赤十字社職能団体の発行誌職員の業績：「日赤図書館雑誌」「日赤検査」等
5. 職員の業績

これらのコンテンツの利用について調査したので報告する。

II. 方法

2012年6月から2014年3月の期間におけるリポジトリの利用状況を集計した。集計方法は、JAIRO-Cludのログ解析機能から、「アイテム登録数」「ダウンロード回数」「閲覧回数」をダウンロードし利用した。

III. 結果

登録数は5,281件、ダウンロード回数は139,801回、閲覧回数は65,816回であった。またカウンターは289,016回で、毎月平均約13,137回、毎日平均約438回のアクセスがあった。「赤十字リポジトリ」は、毎年開催される日赤医学会の抄録集「日赤医学」の公開が主な目的であり、「日赤医学」のダウンロード回数は、全体コンテンツの49%、閲覧回数は53%であった。「日赤医学」内の学会プログラムページは、2012年が809回、2013年が1,837回のダウンロードがあり、学会の前後に参加者の利用が多いと予測される。しかし、ダウンロードの上位には、各病院の紀要文献の利用も多く、中でも看護系の事例報告が活用されていた。また、ホスト解析により31大学からのアクセスが確認できた。

IV. おわりに

日赤医学会において、厚い抄録集に付箋を付け持ち歩くベテラン職員の後部席で、プログラムをダウンロードし、iPadにてページをめくる若手職員の姿を目撃し、「日赤医学」も電子媒体の学会抄録集として、充分活用されていることを実感した。大学のリポジトリとは利用目的が異なるが、本来のリポジトリとしての業績も増やしていきたい。